

第27週(7月1日～7月7日)トピックス: <手足口病>

京都市及び全国の発生動向

手足口病の定点当たり報告数は、本市が8.91(前週:8.53)、全国では11.46(前週:8.45)となっており、本市では第22週以降、全国では第25週以降、警報レベルの開始基準値である定点当たり報告数「5」を超えて推移しています(図1)。

過去10年間の推移を見ると、本市、全国共に2015年、2017年、及び2019年と1年おきに警報レベルを超過する流行が見られていましたが、新型コロナウイルス感染症が流行した2020年～2022年及び2023年までの4年間は報告数が少ない状況が続き、本年は5年ぶりの流行となっています(図2)。

手足口病は感染症法で5類感染症(小児科定点)に定められています。本感染症の原因となるウイルスは、コクサッキーA6型及びA16型、エンテロウイルス71型など数種類あり、毎年異なった割合で検出されます。本年のウイルス検出状況と、過去10年間のうち、新型コロナウイルス感染症流行年の2020年～2022年を除いた年ごとの検出状況を比較すると、全国的に流行した2015年、2017年、及び2019年はコクサッキーA6型の検出割合が多い傾向にありました。本年は流行シーズン中で、まだ検出数が少ないものの、コクサッキーA6型の割合が多くなっています(図3)。過去の流行年と同じ傾向が見られるため、今後も十分な警戒が必要です。

症状

手足口病は、乳幼児を中心に主に夏に流行し、例年、報告数の90%前後を5歳以下が占めています。主症状として感染してから3～5日後に口の中、手のひら、足底や足背などに2～3mmの水疱性発疹が現れます。また、発熱は患者の約3分の1にみられます。

感染経路及び予防

感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染で、特に乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園では注意が必要です。乳幼児は、原因ウイルスに感染した経験のない割合が高く、感染すると多くが発病します。

感染予防としては、手洗いをすることと排泄物を適切に処理することが大切です。保育施設等では感染を広げないために、職員と乳幼児がしっかりと手洗いをすることが重要です。

図1 京都市と全国の流行状況

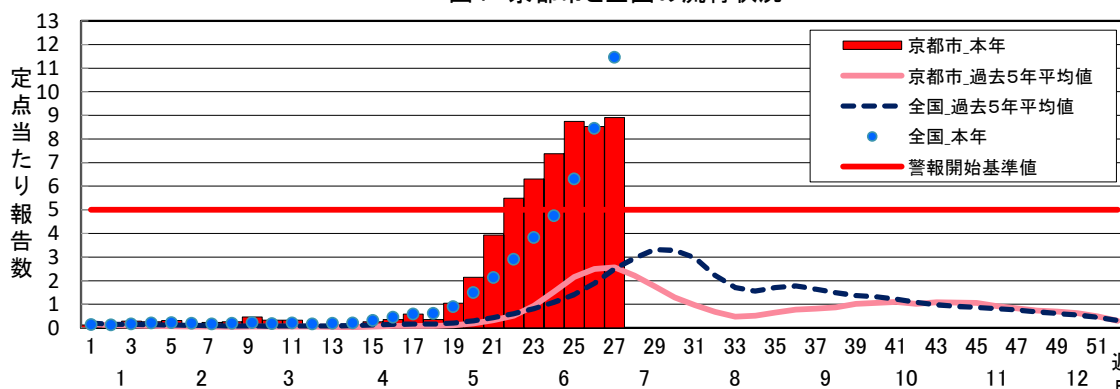


図2 京都市と全国の定点当たり報告数の推移(2014年～2024年27週まで)

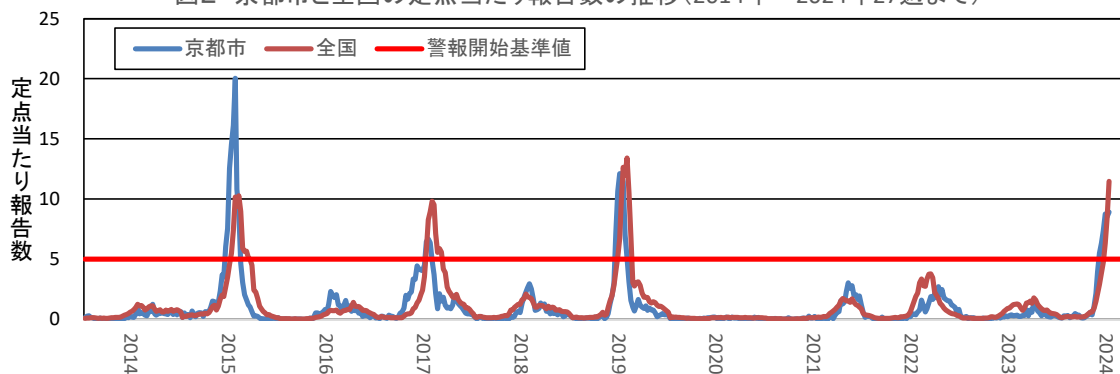


図3 全国の手足口病患者から分離・検出されたウイルスの数(左)とコクサッキーA6の割合(右)

